

# リーダーの孤独な意思決定を、 組織が動き出す一手へ。

止まっているのは、人ではなく"組織の詰まり"です。

2026年3月



JIBUN-GOTO.

48

停滞の「引き金」になるか。  
飛躍への「原動力」になるか。

- 孤独な決断を、48時間で「現場の初動」へ。

株式会社JIBUN-GOTO.は、リーダーの意思決定の質を極限まで高め、迷いなき飛躍へと導く「リボーンメンター」です。

その決断を、未来の資産へ。

孤独な意思決定に、もう一つの視界を。





- 環境変化は速く、利害は複雑に絡み合い、判断の前提は常に揺れ動いています
- 差が生まれるのは「何を決めるか」ではなく「どう決めるか」
- 「意思決定の設計」の質が、組織の未来を左右します

**「私たちが提供するの  
は、確信をつくる  
伴走支援です。」**

# 高野 光二郎 (たかの こうじろう)

- 1974年 ● 高知県生まれ
- 政治家時代 ● 高知県議会議員2期・参議院議員2期、  
農林水産大臣政務官
- 2023年 ● 参議院議員を辞職。  
仏門での得度・禅の修練
- 2026年 ● KIT虎ノ門大学院にてMBA修了
- 現在 ● 株式会社JIBUN-GOTO.代表取締役・  
リボンメンター

## Qualifications:

-  MBA
-  エグゼクティブ・メンター認定
-  EQPI®アナリスト認定
-  防災士

## Book:

-  Amazon Kindle  
4部門ベストセラー1位  
『元国会議員の内省ノート』

# 意思決定の伴走者として立てる「4つの土台」

01

頂点とどん底を知る  
(政治・実戦)

7度の選挙戦、100件超の現場支援。

02

経験を再現性に変える  
(経営管理・論理)

MBA取得、失敗の学術的解明とメソッド化。

03

修羅場で揺れない精神  
(仏道)

仏門・禅の修練、冷静な「諦観」の力。

04

生きたつながりを持つ  
(人脈・ネットワーク)

政治・行政・地域・民間の多層的なつながり。

# 「意思決定を整え、組織を動かす」3つのサービス

## 01

### リボンメンタリング

孤独な決断を、48時間以内の「初動」へ変える伴走支援。経営トップの意思決定に継続伴走。

## 02

### エグゼクティブ・ コーチング

客観データと鋭い問いで、「無意識のブレーキ」を可視化。EQPI®解析などを組み合わせ、フィードフォワードを引き出す。

## 03

### 合意形成・組織変革 ファシリテーション

組織の詰まりは「能力不足」ではなく「摩擦の構造」。システム思考で構造を整理し、決定が現場に定着するまで伴走。

# 決断を「初動」へ変える3つの装置

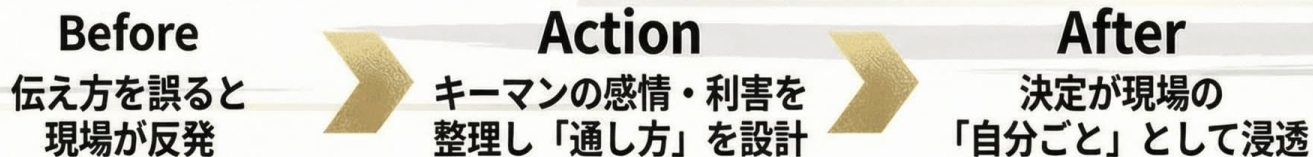
## 装置01 決断メモ



## 装置02 利害から離れた対話の場



## 装置03 合意形成の設計



# 見落としを減らす「6つの眼」——意思決定の死角を小さくする

## ① 国策の眼（大局）

時代の流れや政策環境を読み取り、  
方向性のズレや潜在リスクを見逃さない

## ② 大衆の眼（人の心）

人が動く条件を見極め、  
組織や社会の温度差を正確に読む

## ③ 情報の眼（事実）

客観的な事実を拾い直し、  
思い込みによる判断ミスを防ぐ

## ④ 監査の眼（思い込み点検）

同調圧力や認知バイアスを点検し、  
判断の偏りを整える

## ⑤ 伴走の眼（折れない軸）

恐れや迷いを扱いながら、  
意思決定の芯を保つ

## ⑥ 承継の眼（未来設計）

次世代や組織に残る形で、  
出口まで含めた意思決定を設計する

# 意思決定を整え、通し、積み上げる「6つの目」

1

## 鏡の目（言語化）

本音・葛藤・希望を評価せずに言葉にし、論点を明確にする

2

## 鳥の目（俯瞰）

現状と理想を整理し、詰まりと優先順位を見立てる

3

## 拡張思考の目（選択肢拡張）

別解を広げ、より良い一手を選べる状態をつくる

4

## 土の目（現場・市場・実装）

現場や市場の制約を踏まえ、動く現実解へ着地させる

5

## 通す目（合意形成）

誰に、いつ、どの順で通すかを設計し、組織が動く形に整える

6

## 積み上げる目（継続と再現性）

実行→検証→改善を回し、属人化せず続く型をつくる

# 6つの目

# 決断の熱が冷める前に動く——なぜ期限は「48時間」なのか



48h

- 意思決定は、現場への初動が遅れるほど解釈のズレと調整の消耗が一気に増えていきます。
- どれほど鋭い決断でも、時間が経つほど現場の理解はばらつき、本来の意図は薄れていきます。
- だから私たちは、決断の熱が冷める前に動きます。
- 「誰が、何を、いつ動かすか」まで48時間以内に設計し、実行を軌道に乗せます。

# 率いる組織に潜む、見えない「金属疲労」——6つのサイン

## 金属疲労

### □ 会議が形だけ

(話が散り、結論が出ない。出ても蒸し返される)

### □ 利害調整で止まる

(正しさより「利害・立場・感情」が優先され消耗)

### □ 判断が社長だけに集中

(幹部が社長の顔色を見て黙ってしまう)

### □ 現場の信頼が枯れる

(悪い情報ほど上に上がってこなくなる)

### □ 実行が別物になる

(決定が現場でねじ曲がり、戦略が空回り)

### □ 警告が当たり前になる

(小さなミスが繰り返され、大きな事故の予兆を見逃す)

一つでも心当たりがあれば、それが「金属疲労」のサインです。

# 多くのご相談は、この3つの局面から始まります

01

## 意思決定が止まっている

重要な判断を前に頭の中で堂々巡り。事業承継・組織再編など後戻りできない決断を迫られている。

02

## 組織が動かない

幹部との温度差。No.2や後継者が育たない。社員が指示待ちになり自ら動かない。

03

## 経営者としての孤独

社内に本音を打ち明けられる相手がない。決断のスピードが落ちてきている。

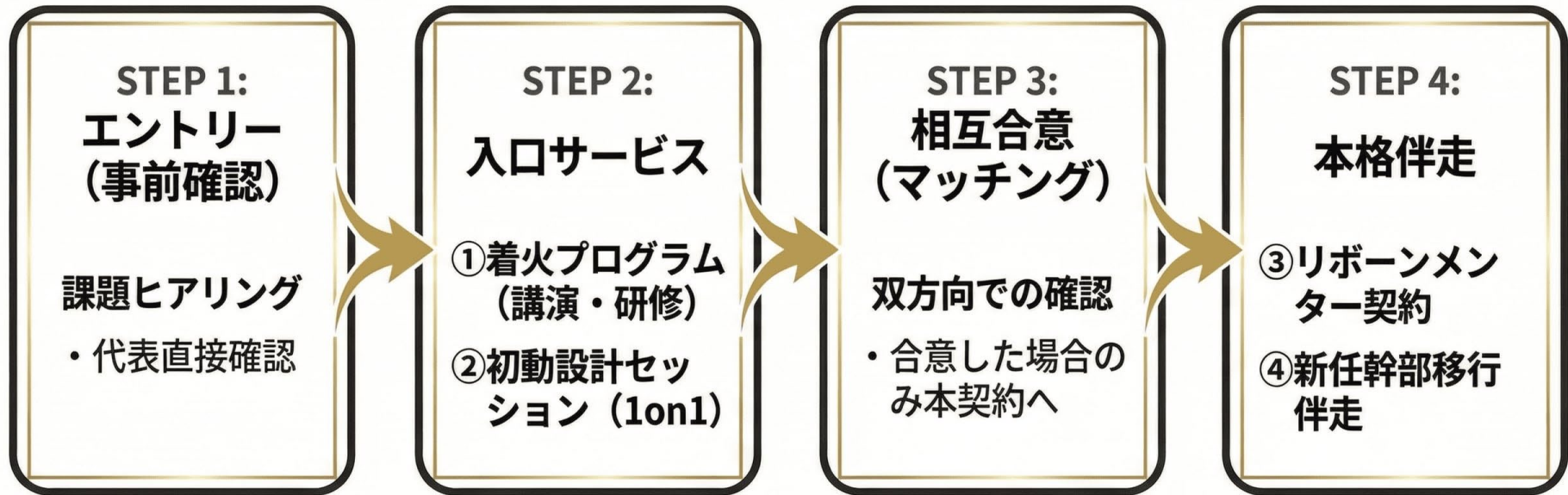
一つでも心当たりがあるなら、「次の一手」を外部の視点と共に設計するタイミングです。

## リボーンメンターは「第三の立ち位置」——他の専門家との役割の違い

	リボーンメンター	士業	コンサルタント	コーチ
強み	実行までの伴走＋ 合意形成の設計	法務・財務で リスク回避	客観分析・ 戦略提示	問いで 内面を整理
特徴	決定が現場で動く ところまで伴走する	専門知識で 組織を守る	改善案を 提示する	本人の答えを 引き出す
限界	【スタンス】： 直接的な組織介入 (ジャッジ・指導) は行わない	実行の伴走は 対象外	現場の感情・ 摩擦は対象外	判断軸の設計は 対象外

評価で距離を変えず、成功も失敗も未来の資産として扱う。それが「リボーンメンター」です。

# 決断を、48時間以内の初動へ——サービス導入の流れ



## 4つのサービスメニューと料金目安

### ① 着火プログラム（講演・研修）

対象：組織向け／内容：事前ヒアリングに基づく個別設計。  
「明日、誰が何をするか」まで踏み込む

料金：オンライン 200,000円～ /  
対面 300,000円～（税別）

### ② 初動設計セッション

対象：経営者・リーダー／  
内容：90分：戦略設計セッション／120分：EQPI統合セッション

料金：70,000円～ /  
100,000円～（税別）

### ③ リボンメンター契約

対象：経営トップ／  
内容：月2回または週1回の定例メンタリング。限定10名・相互合意制

料金：個別お見積り

### ④ 新任幹部移行伴走

対象：新任幹部／  
内容：4カ月集中。着任前～着任後の新体制立ち上げを支援。同時5名まで

料金：個別お見積り

# 「主観の整理と客観的分析の融合」——3つの分析ツール

## 01

### EQPI<sup>®</sup>解析 (自己OSの可視化)

変えにくい「性格」と、鍛えられる「EQ」をデータで分離。思考・感情の癖を客観的に把握し、自己制御の技術を磨く。

## 02

### 21の無意識ブレーキ (成功の罠の特定)

かつての「安全装置」が、今は成長を止めているかもしれない。今のフェーズで手放すべきブレーキを可視化。

## 03

### 視点の同期 (360度フィードバック)

リーダーの「自己認識」と「現場の現実」のギャップを測る。信頼できる周囲の声を「生データ」として収集し、死角を可視化。

「過去への反省会」ではなく、データをもとに次の行動を変えるフィードフォワードに集中する。

# リーダーたちの「決断が動いた瞬間」

講演・研修満足度：**94~100%**

外部メンター必要実感：**82~100%**

## 1. IT企業 CEO (40代)

Before：社長の判断待ち

After：幹部3名の自律運営

「任せるのが怖かったのではなく、  
任せた後の自分の居場所が怖かった」

## 2. サービス業 代表 (50代)

Before：踏み出す確信がない

After：選択肢が広がり事業化へ

「対話で選択肢が広がり、  
自信を持って事業化へ踏み出せた」

## 3. 福祉・地域サービス 代表 (40代)

Before：行政との関わり方が不明

After：やり取りを習得し第一歩へ

「行政・政治とのやり取りを習得し、  
確信を持って第一歩を踏み出した」

# 再挑戦へ踏み出す確かな一步を、共に。 誰でも、いつでも、何度でも挑戦できる社会をつくる。

- ・最終的な決断は、トップ一人の孤強な仕事です。
- ・しかし、そこに至る迷いや葛藤まで、一人で抱え込む必要はありません。
- ・過去の成功も失敗も、すべては未来の資産になります。

## その決断を、48時間以内の初動へ。